

平成24年5月17日

『競馬場跡地利活用基本方針』
(概要版)

跡地活用の背景

1 高崎市の拠点性

群馬県は東京から100kmという近接圏に位置し、平成23年3月に北関東自動車道が全線開通、平成26年には北陸新幹線が金沢まで延伸予定であり、首都圏、東北、信越、北陸、中京圏を結ぶ高速道路・新幹線等の結節点として、高まる拠点性

2 高崎競馬場跡地の重要性

高崎競馬場跡地は、群馬県の交通の要衝である高崎駅東口から約1kmに立地する、様々な可能性を持った10.8haの貴重な大規模空間であり、跡地の利活用は群馬県の将来を左右するほどの重要性を持ち、国内はもとより世界を視野に入れた本県の発展に役立つ利活用が期待されている

機能導入の目的

1 交流人口の増加

「はばたけぐんまプラン」では、発展する群馬県の交通拠点性を活かして、交流人口を増加させ群馬県経済の発展を目指すこととし、これからの群馬県の発展を考えたとき、国際的な集客を含む交流人口の増加が必要である

2 産業・経済の振興

群馬県には、製造品出荷額の大きい産業の集積があり、これらの産業をさらに発展させていくためには、商品展示や販売促進のイベント開催が必要である

3 アジアの成長力の取り込み

平成24年3月に「群馬県国際戦略」を策定し、東アジアの活力を取り込むこととした。身近にアジアという巨大な市場が出現し、これらの旺盛な需要を取り込み、本県経済の活性化を図っていく必要がある

4 機会損失の解消

日本はアメリカに次いで国際会議が多く開催されているが、群馬県での開催は全国でも下位であるのは、施設の不足によるものであり、ビジネスチャンスを喪失しているこれらの機会損失の解消が必要である

導入する機能

1 主たる機能

複合一体型のコンベンション施設を導入する

- ・さまざまなイベントに活用できる大規模展示施設
- ・同時通訳ブースを備えた県を代表する国際会議場
- ・千人規模のレセプションや式典が開催可能なメインホール
- ・分科会などが柔軟に開催できる数を有する中・小会議室
- ・開催に支障をきたさない規模を有する駐車場

2 その他の機能

- ・災害時に避難場所として利用可能な緑地
- ・場外馬券発売所

3 効果

- ・コンベンションの開催に伴う直接的な支出にとどまらず、間接的な経済効果をもたらされる
- ・コンベンション施設の新設により、交流人口が拡大し、イメージアップの向上や都市間競争力の向上をもたらし、本県経済の発展が期待できる

事業の推進

1 整備計画

- ・平成24年度 整備基本構想(基本計画)
- ・平成25年度～26年度 基本設計及び実施設計
- ・平成27年度 工事着工

2 事業手法

跡地の利活用にあたっては、民間活力を最大限に活用するなど、効率的・効果的な事業手法を導入する

3 用地確保

競馬場跡地は、県有地や市有地及び民有地が複雑に配置されており、一団の土地として施設整備を行うためには、公有地化を推進していく必要がある

競馬場跡地内の民有地については、地元関係者の協力を得ながら、積極的に公有化を進める